

教科名		児童の実態(現状の課題)	具体的な改善のための方策
国語	教科の課題	【書く力】 ・段落に気を付けて、作文や感想文を書ける児童もいるが、個人差が見られる。 【語彙力・漢字】 ・文章を書く際の語彙力の差が大きい。学習した漢字をひらがなで書いてしまう児童がいる。 【思考力・判断力・表現力】 ・物語や説明文では、主人公の気持ちの変化や筆者の考えを読み取ることができたが、自分の考えや感想を上手に表現できない児童が見られる。	【書く力】 ・モデル文を示し、文章構成や内容を確認しながら学習を進める。段落を意識させる。 【語彙力・漢字】 ・既習漢字の復習を行う時間を設けたり漢字検定に向けての学習を取り入れたりしていく。 【思考力・判断力・表現力】 ・学習のまとめとして、感想を書いたり伝えたりする活動を通して、思考力や表現力を伸ばしていく。
	言語能力育成のための工夫	【言語能力】 ・音読の際にスムーズに読める児童と詰まってしまう児童の差が見られる。	【言語能力】 ・週一回の図書の時間を活用し、個々の成長に即した本の選定を助言する。調べ学習において図書を活用する経験を増やす。音読の宿題を毎日行う。 ・学力向上タイムを活用して漢字練習に取り組む。
社会	教科の課題	【事実、事象の意味を考える活動】 ・屋上から学校の周りを観察し、各方位の特徴をつかむことはできたが、南町周辺以外の土地の様子や使われ方が実感できていない。 【表現力】 ・府中市の地図を読み取る活動を通し、土地の使われ方の特徴に気付いたり、交通の様子について考えたりすることができた。学習して分かったことを、まとめたり発信したりする力が不十分である。	【事実、事象の意味を考える活動】 ・地図や航空写真、ICT等を活用して、土地の様子や特徴を捉えられるようにする。社会科見学や出前授業などを活用し、体験型学習を充実させる。 【表現力】 ・社会科新聞やパンフレット作りなどの活動を通して、学習のまとめをさらに充実させていく。新聞作りでは、完成モデルを提示し、見出しや書き方のポイントを説明することで、児童が見通しをもって表現できるようにする。
算数	教科の課題	【知識・技能の定着】 ・四則計算が正確にできない児童が見られる。 ・時刻と時間の感覚が身に付いていない。 【自力解決】 ・自力解決の際、自分の考えをもつことができない児童が見られる。 ・文章問題の読み取りができず、立式や自力解決ができない児童が見られる。	【知識・技能の定着】 ・九九を定着させる。授業や学力向上タイムの活用、家庭学習でドリル学習等の復習を充実させ計算力の向上を図る。 ・日頃から時間を意識させる。図や数直線を活用して、時間の経過のイメージをもちやすくする。 【自力解決】 ・問題を把握するために、分かっていることや問われていることを確認する。既習事項を想起させ、自力解決が難しい場合には解決方法を選択できるようにする。
理科	教科の課題	【観察・実験】 ・観察や実験は意欲的に行っている。目的や観点がずれてしまう児童が見られる。 【思考力・判断力・表現力】 ・調べてわかったことを、学習問題に照らし合わせて考察することが難しい。 ・自分の経験と結び付けながら予測することが難しい児童が多い。	【観察・実験】 ・学習問題や活動の目的を明確にし、記録の際のポイントや書き方のモデルを示す。 【思考力・判断力・表現力】 ・ノート指導を充実させ、何についてどんな方法で調べていたのか、また自分の予想はどうだったのかを想起させる。比較や関連付け・理由付けなど、考察の際のポイントも明示する。
音楽	教科の課題	【思いや意図をもって表現する】 ・音楽表現をするために必要な技能が身に付いていない児童が多い。 【曲のよさを伝え合う】 ・曲想と音楽の構造などの関わりに気付いたり、曲や演奏のよさなどを見出しながら音楽を味わって聴くことができるようにする。	【思いや意図をもって表現する】 ・教科書の題材を丁寧に指導していくことが必要である。楽譜を見る習慣を付けていく。 【曲のよさを伝え合う】 ・一つの曲を聴いたときに、どう思ったか、どういうふうに表現したいか、思いや意図をもてるように工夫していく。
図工	教科の課題	【知識・技能】 ・全体指導では何をしたらいいかわからない子もいる為、視覚的に分かり易い指導や個別指導が必要。 【思考力・判断力・表現力】 ・自分なりの楽しい表現を見付けて意欲的に取り組む児童が多いが、粘り強く丁寧に取り組むことが苦手。 ・表したいことを思いつかず、手が止まってしまう子もいる。	【知識・技能】 ・段階見本、ICT機器を活用して活動の流れを視覚的に分かりやすく示したり、系統的に学習を振り返ったりすることで、児童が見通しをもって安心して取り組むことができるようにする。 【思考力・判断力・表現力】 ・個人の思いを汲み取り、表したいことを形にする方法を具体的にアドバイスする。 ・児童同士で作品鑑賞をし、よさを伝え合う活動をする。
体育	教科の課題	【運動の工夫】 ・できることばかりやりたがり、できないことを避けようとする児童が多い。 【伝える】 ・「ソフトバレーボール」の学習では、チームで練習する際に声かけを積極的に行う姿が見られた。 ・伝え方が分からず困る児童もいた。	【運動の工夫】 ・見本を見せ、やり方を順序立てて伝え、自分がどの段階にいるのかを明確にし工夫できるようにする。 ・校内研修で学んだ運動を授業の導入に取り入れることで、多様な動きができるようにする。 【伝える】 ・教え合いの方法を共通理解する。 ・友達のよかったところを書いたり発表し合ったり、自分も意識して運動できるようにする。
道徳	教科の課題	【自分事として考える】 ・自分がされて嫌だと思うことがあっても友達にになってしまうことがある。分かっているけど止められない、やってしまうという行動が見られる。 【書く】 ・積極的に考えや気持ちを表現する児童も見られるが、自分の考えをごまかしてしまうことがある。	【自分事として考える】 ・児童の日常を取り上げながら学習内容の振り返りができるようにする。 【書く】 ・自分の気持ちを大切にすることのよさを伝え、書く時間を確保する。書くことが思い浮かばない児童は担任が自分だったらどうかを聞き、児童の気持ちを表現する言葉を助言する。
総合的な学習の時間	教科の課題	【問題を発見、把握する活動】 ・1学期は理科の学習をもとにして、学習課題をつかみ、意欲的に取り組むことができた。 【思考力・判断力・表現力】 ・「生き物はかせになろう」では、自分で生き物を選択し、図鑑やインターネットを用いて意欲的に調べ学習を行うことができた。	【問題を発見、把握する活動】 ・各教科の学習を生かして学習課題を設定し、児童の学習意欲につなげていく。 【思考力・判断力・表現力】 ・ICTを活用して、調べたことを分かりやすくまとめたり発表したりする活動を充実させる。まとめ方のモデルを示したり、お互いのレポートを見合ったりする活動を通して表現力を高めていく。
学びに向かう力等を育むための方策		・学習課題を意識せずに活動したり活動に見通しがもててなかったりする児童がいる。	・学習のめあてや課題を意識して活動できるように、板書や発問を工夫する。 ・学習感想などで学びの振り返りをして、学習の見通しをもてるようにする。